

環境保健センター試験研究計画書

番号	R7-5	課題名	ウイルス・リケッチア感染症の包括的流行疫学に関する研究【継続】			
期間	令和7～9年度	担当部課室	保健科学部 ウイルス科			
課題設定の背景	1 政策上の位置付け	本課題は、「第3次晴れの国おかやま生き生きプラン」及び「岡山県感染症予防計画」に掲げる「感染症対策」を、科学的知見に基づいて推進することに資するものである。				
	2 県民や社会のニーズの状況	地方衛生研究所には、近年続発する新興感染症はもとより、既存の感染症に対しても適切な検査診断や流行疫学解析の実施が求められている。また、その発生予防やまん延防止のため、環境水、媒介動物等を対象とした調査による地域全体の病原体分布の解明が望まれている。				
	3 県が直接取り組む理由	当センターは、危険性の高いウイルス・リケッチアを扱うことができる県下唯一の検査機関であり、健康危機管理上で必要な行政検査とも関連する。				
	4 事業の緊要性	行政検査の効率化は、質の高い流行疫学解析のために必要である。下水サーベイランスは、既知ウイルスはもとより、新興ウイルスの発生・県内侵入の監視に必要である。致死率の高い病原体を保有するマダニの分布状況の継続的な監視は、予防啓発に必要である。				
試験研究の概要	1 目標	行政検査の効率化により、感染症の原因ウイルス・リケッチアの特定効率を向上する。また、地域全体の病原体の分布を把握・解析し、感染症の流行拡大防止や発生防止の一助とする。				
	2 実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>患者検体を対象としたウイルス行政検査を効率化し、検査スキームを構築する。</li> <li>下水サーベイランスにより、ウイルスの地域流行を正確に把握する。</li> <li>マダニの定点調査や野生動物の抗体調査等により、マダニ媒介病原体の分布を把握する。</li> </ul>				
	3 技術の新規性・独創性	下水処理場への流入水によるウイルスの詳細な流行疫学解析は新型コロナウイルス感染症の流行を契機として全世界で活発に技術開発が行われている先行的な研究である。また、県内でマダニの生息調査技術及び保有病原体の解析技術を有するのは当センターのみである。				
	4 実現可能性・難易度	実現の可能性 中 難易度 高				
	5 実施体制	1.4名				
成果の活用・発展性	1 活用可能性	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政検査の効率化と検査スキームの構築により、質の高い流行疫学解析が可能となる。</li> <li>患者発生に先んじて地域に侵淫するウイルス・リケッチアを特定することで、従来よりも早期の感染症予防対策の啓発が可能となる。</li> </ul>				
	2 普及方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>年報掲載、学会発表</li> <li>県内外検査機関等への研修指導</li> <li>県、市町村等の行政機関関係者への情報提供</li> </ul>				
	3 成果の発展可能性	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境水サーベイランスと従来の患者サーベイランスを組み合わせ、より詳細なウイルスの流行を把握することで、迅速で的確な感染症予防対策が可能となる。</li> <li>マダニの生息状況の把握に加え、将来的には野生動物の生息動態を勘案した感染リスクマップを作成することで、マダニ媒介感染症の効果的な予防啓発が可能となる。</li> </ul>				
実施計画	実施内容	年度	R7	R8	R9	総事業費 (千円)
	行政検査の効率化					
	下水サーベイランス					
	マダニ調査					
	計画事業費		484	484	484	1,452
	一般財源		484	484	484	1,452
	外部資金等		0	0	0	0
人件費(常勤職員)		11,200	11,200	11,200	33,600	
総事業コスト		11,684	11,684	11,684	35,052	